

## 早稲田大学 第一文学部 古典 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	国語 90 分
特徴・その他	<p>古文に関しては、昨年同様リード文が用意されており、見慣れない作品ではあるが、贈答歌を中心とした作品のわりには内容はつかみやすい。</p> <p>漢文は、総合的な読解力＋設問解法のテクニックが要求される。</p>

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(三)	<p>古文（私家集）。</p> <p>「藤原隆信朝臣集」は、2000年の政経学部で出題された作品。今回の一文の方が理解しやすい。</p>	<p>リード文を丁寧に読めば、場面状況は理解される。</p> <p>問十八の解釈問題のD「心のほど」の「心」は誰の心か？がミスしやすい。</p> <p>問二十は、早稲田大での頻出問題の一つ。丁寧に文脈を追っていくことが大切。</p> <p>問二十一は女性との贈答歌という視点を忘れずに解くこと。</p> <p>問二十二の文学史も頻出問題の一つ。「単独で」に注意し消去法で解く。ただし、消去される作品に対する知識があるかどうか肝要。</p>	標準
(四)	<p>漢文（歴史書）。</p> <p>「司馬光『資治通鑑』の中の『周紀』の一節」。</p>	<p>早稲田大特有の設問形式。正確な読解力が要求されている。</p> <p>問二十三・問二十五は、基本的な読みの設問。「何則（なんとすれば）」は理由を述べる重要語句。</p> <p>問二十五は返読文字に注意。</p> <p>問二十四は、漢文のいつもの設問パターン。直前部分を参照。</p> <p>問二十六は、話題の中心は何か？をつかむ。</p>	標準

### 〔総合コメント〕

古文は普段の早大古文（早稲田予備校）のテキストを学習していた受験生には物足りない内容ではなかったか。一文の設問パターンも例年通り、変化のないものであった。ただ、正しい読解力・文法力が要求されているので、基本に忠実な学習が大切。

漢文は、相変わらず、早大の漢文を解き慣れていれば設問だけで解けてしまう。漢文特有の重要語句の読みと意味用法・基本句形の学習を怠らずに行えば、容易に解けるはず。